

本間建雄美君 平松前会長の卓話楽しみに

山本充君 平松さんのお話を楽しみにまいりました。

ロータリー財団：

山本賢君 ひっこしそばにかえて。三竹3-3-1に転居しました。

樋口金占君 財団に協力して

坂内康男君 テーブルがいっしょで協力します

加藤英男君 テーブルの上にボックスが二つありました。

木宮隆君 笹原委員長ににらまれまして不本意ながら

村山誠一君 すわった席が悪かった。

笹原勝治君 皆さん感謝感謝次はどの席にすわろうかな。

米山奨学：

早川瀧雄君 坂内さんのとなりにすわりました。米山委員長ごくろう様です

笹原勝治君 なし お盆を祝って

村山誠一君

坂内康男君 大変御協力ありがとうございます

樋口金占君 ボックスに協力して

木宮隆君 ボックスに協力して、隣が坂内さんとはつゆ知らず

加藤英男君 ボックスに協力して、／

卓話： ロータリーを知ろう「私とロータリー」平松利朗前会長



今日は先回の梨本元会長に引き続きまして「私とロータリー」の第2回目でございます。私の約5年間の北クラブでの生活の雑感を述べさせて頂きたいと思います。前回、梨本さんはJCとロータリーの違いにふれられてロータリーの理念を分りやすく説明されていまして。

JCは積極的に社会開発に関わっているが、ロータリーはもうちょっとゆっくり行こうという会であるとおっしゃっていたと思います。また先日、山岸分区代理が公式訪問のオリエンテーションでロータリーの概念的なことについて説明されておりましたし、橋本ガバナー公式

訪問でも、ガバナーはお話の前段でロータリーについてのご自身のお考えをお話になっていたらしいです。もちろん現況報告書の冒頭のところにも載っておりますが、そういうものを見ますとロータリーとは何か概略つかめるかと思います。ただロータリーは本を読んだり、立派な方のお話をお聞きしても、理解出来ないところがあるかと思います。私も入会して2、3年たった頃、何の為にロータリーに入っているのか分らなくなってきたことがございます。ロータリーの川柳にこんな文句があります。「だんだんと分らなくなるロータリー」そのことを私は実感として感じました。そこで辞めてしまえばそれまでなのですが、そこに入っていれば何かいいことがあるのではな

いかと思って入っておりますと、これは相手が悪いんじゃないくて自分の受け方、処し方、態度に足りないところがあったからなんだと気がつきました。すると、だんだんとロータリーの良さが見えてくるようになりました。ところで、去年のガバナー報告書の冒頭のところに今井さんの会長方針が載せてありますが、その最初のところに、「皆、一番働く年令です。まだまだ若いクラブです。改めて基本を見直したいと思います。自分はなぜロータリーに入会したのか、ロータリーに何を期待しているのか、不満があればそれにどう対処したらいいのか、ということを改めて考えてみたい。」と書いていらっしゃる。私もロータリーの会長までやり、ロータリーをどれだけ分かっているのだろうか、これを機会に考え直してみました。それをまとめますと、まずロータリーの効用として最も多い意見は、「たくさんのいろんな分野の人達と知り合いになれたというのが一番ロータリーに入って良かった。」というものです。実は私も同じでした。いろんな人達と会えることによって、いろいろな話が聞けますし、そのお話の中で自分の出来なかった経験も話を通してすることが出来ます。普通、自分の周りを取りまく人達と申しますと、家族、親戚縁者、職場、同業者の集まり、あるいは地域社会のつながり等もございしますが、ロータリーに入会することによって、例会や懇親会、またクラブ内のものだけでなく、この三条地区のロータリー、ライオンズとのつながり、また地区大会に行けば群馬県の人達とのつながり、そういうものも立場、立場によって徐々に出てまいります。そんなことで、入ることによって自分の世界が広がります。昔の言葉で言えば、人事百般に通じる糸口になるということだろうと思います。私は謡曲をかじったことがございしますが、あの出し物の中に神・男・女・狂気という分け方をしております。たとえば高砂とか鶴亀というものは神様のおめでたいものですが、羅生門のような鬼退治は男物ですね。それから羽衣とか源氏物語の中の葵上などは女の業みたいなのを根から出してくる凄みのある態です。凄みといえは黒塚というのもございします。人を取って喰う鬼が夜な夜な出てくる物凄い話なんですけど、そんなものをつきつめてみれば、人間の弱さ、業みたいなのをいろいろあらわしたものが能で、能を楽しむことによって居ながらにして人間というものが分かるということだと思えます。それと同じような意味あい、ロータリーも自分がそれを理解しようという態度があれば、短い時間で人の考え方、強さ、弱さというものが分かるということだと思えます。それから、もうひとつロータリーの効用は、一週間に一回、息抜きの時間になるということです。先程、話の出たJCは若さ一杯で社会開発運動に取り組み。じっとしていることのきらいな会ですが、ロータリークラブは最低限の規則さえ守れば、あとはゆっくりロータリーライフを楽しむという態度で徹せられるところです。3番目として、いろいろな考え方、見方にふれられるということがございします。年令差やこれはあまり好きな言葉ではないのですが、社会的地位の違いから、普通なかなかな会えないような人と二言、三言でも違うと思うんですが、話を交わされる、そういうもので得るものが結構あるのではないかと思います。さて、いよいよ最後になってきました。自分も正しいけど、他人も正しいんだ、正しさはいくつあってもいいんだ、相手の立場を認めるというのはそういうことだろうと思います。ロータリーの中で、そういう気持ちで人を認めるということの謙虚さを持てば、度量の広さに